

新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

税が助ける命

胎内市立 中条中学校 二年 松 葉 祥 太 さん

僕には、十一歳離れている弟がいます。弟は先天性色素性母斑という大きいほくろのような黒いあざをもって生まれてきました。がんになるリスクを減らすためにあざを取る手術を何度か行い、今も経過をお医者さんに確認してもらうため、定期的な通院をしています。

税金について作品を書くにあたり医療費も税金が使われていることを知りました。弟が手術をするために入院が必要で、その時の食事代や入院着代は自分で払うことになりましたが、国民健康保険制度や、子ども医療費助成制度のおかげで手術代はかからず入院費は一日千二百円、通院の場合は一回あたり最大五百三十円で済みます。両親が

「手術代がかからないのは本当に助かる。もし何十万、何百万円も払っていたら手術を受けるかどうか迷っていたと思う。」

と話していたのを聞きました。僕はそれに対し、弟が何回も手術を受けられるのは日本の医療制度が充実しているからだとして初めて実感しました。

また、今年の春に高熱が出てしまい、念のため新型コロナウイルスのPCR検査をしました。その時の医療明細書を母に見せてもらいましたが、実際に払った金額は五百三十円なのに対し、本当にかかった医療費には二万円近い金額が書かれていました。お薬代も入れればもっと高い金額が書かれているでしょう。僕は五人兄弟です。その時は全員熱が出てしまい同じ検査をしたので十万円かかっていることになるのです。このことから、国民健康保険制度や子ども医療費助成制度によって少ない金額で医療機関を受診できるので、安心して健康に生活できていることがわかりました。

また身近な税金でもう一つ、僕たち子どもも消費税を払っています。昔はなかったようですが三パーセントから始まった消費税は徐々に上がり現在は十パーセントになりました。ニュースを見ると今後も上がっていくかもしれません。消費税が上がると僕がお菓子や、ゲームを買ったときに払う金額が多くなるので、税金が上がるかもしれないといった記事を見ると嫌だなと感じていました。でも、この作文を書くにあたり調べた医療制度、教育制度、年金制度、道路など全てではありませんが僕らが生活するために税金は欠かせないものだとして身近な例を通して実感しました。将来働いた時、今よりも多くの種類の税金を納めることになりますが、それ以上に僕たちは税金によって助けられていることに気が付けて良かったと思います。僕も正しく税金を納めて、みんなの生活の手助けに貢献できたらいいなと思います。